

知的障がいのある人たちのコミュニケーションを促進する ICT の活用

研究概要 携帯性と利便性を併せ持つタブレット PC は、障がい児教育や障がい者のコミュニケーションに広く用いられるようになった。有効なアプリの検討とその用途について研究している。



社会学部 社会福祉学科

志村 健一 教授 Kenichi Shimura

研究キーワード: 知的障がい タブレット ICT アプリ

URL: <http://researchmap.jp/read0045114>

研究シーズの内容

1. タブレット PC は直感性に優れているため、知的障がいのある人にとって使いやすい。

見たいところは触る、進める場合は指で進める、拡大するには指で開く等、タブレット PC は直感性で操作できるのが特徴であり、携帯性に優れ、わからない事は繰り返し確認できること等、知的障がいのある人にとって使い勝手が良いでしょう。障がい児の学習支援のみにとどまらず、就労支援における作業手順の学習や、社会生活のスキルを身につけるためのツールとして期待できます。

2. 意思疎通を図り、意思決定支援に役立てる。

絵カードのパッケージや会話支援のアプリが開発されています。これらを利用して言語によるコミュニケーションが苦手な人たちのソーシャルワークで活用が期待されます。従来、重度の障がい者の声なき声を聴くのが、専門職の役割であると言われてきましたが、タブレット PC を利用することにより、声なき人たちとの意思疎通が円滑化され、また、意思決定支援の場面での活用が期待されます。

また、アセスメントや調査に活用されることにより、支援計画作成時の本人の参画や、知的障がいのある本人を対象とした調査などにも活用が期待されます。

3. しかし、それをどのように使えばいいのかわからない。

利便性が高い一方、新しい技術の導入は心理的抵抗があったり、使い方がわからないケースも見受けられます。知的障がいのある人たちが使いやすいアプリをパッケージ化し、さらにその有効な使用方法も提供するようなサービスが求められます。

活用例・産業界へのアピールポイント

ソフトバンクが障がいのある人たちへ端末を貸与し、サービスを拡大しているようなケースがすでにありますが、支援の専門的な立場から、端末、アプリ、サービスを一体化する活用が希求されているのではないかと思います。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

志村他(2015)「障がい者福祉施設における ICT の利用」『福祉社会開発研究』第 7 号